20

若狭小浜の霊場小澤寺（おおそうじ）における滝治療

對馬　秀子

順天堂大学法医学研究室

本報告は，これまで精神医療史の中で取り上げられていない若狭小浜の滝治療を紹介し，この地域の民間治療について古文書及び口述記録を史料として記録するのが目的である．

福井県小浜市大谷小澤寺（集落）の不動山は，今日に至るも滔々と水が流れる滝があり静寂な中に凛とした空気が張りつめる霊場である．“不動の滝”は，上流と下流の二段に分かれ，その間に霊峰山全光寺と号する堂宇が在る．滝の傍らには半跏思惟像が安置され，その足下には童子が立ち並んでいる．この霊場に，白装束の行者や精神を病んだ人が市外・県外から尋ねてきて滝に打たれていた．その昔，小浜藩の藩医であった杉田甫仙（杉田玄白の父）は，幼少の玄白にこの滝の水を飲ませたと云われている．しかし，今日ここを訪れる人も少なく不動尊を祀る地元の人以外には，近隣の集落にもこの歴史が伝えられていない．その上，現在この霊場の山に高速道路を通す為トンネルが掘られ工事中である．景観の変化とともに，滝治療の歴史も人の記憶から消えようとしている．

精神病に対する伝統的治療は京都の岩倉が有名であるが，滝治療を行っていたという場所は日本全国にみられる．精神病については，何かの憑依とみて民間治療の対象とする場合，巫女のような宗教的職能者となる場合など地域によっても捉え方が異なる．精神病者への滝治療は，「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」（1950年）施行以降は行われなくなったようである．そして，滝治療の際の宿泊施設から精神病院へと発展していった傾向も窺える．

若狭小浜には約130という数の寺が在るが，滝治療が行われていたのはここだけである．地元に残されている文書（年代等不詳）によると，弘法大師が本国行化の折，此山に当って嚇々と光明のある事を見て尋ね入り呪を唱えた処，童子が出現し，この山は古くから霊場である故に末世衆生の為に明王の尊像を彫み堂于を建立せよ，病，願望のある者は此滝で身を漱ぎ明王を一心に念ずれば諸願悉く成就すべしと告げられた．その後不動明王は盗難にあうも不思議のお告げを得て元の地に戻ったこと等が記されている．

このような伝説を持つ霊場での滝治療は，堂于の下の岩場で行われた．そこに上流から樋で水を引き足場には石畳が敷かれている．病者には女性が多かったが，一日に二度滝に打たせた．山裾にあった麗澤寺（1976年廃寺）の住職が病者の世話をしたが，病者は親子で寺に住み込んで一週間ほど治療に当った．合力は，隣村も含め数人いたが，村内では祖父から父へとK家が担っていた．合力の役割は，病者を30分以上はかかる山道を滝まで連れて行き，滝に打たせることである．暴れる場合は梯子を使い，母親と合力が介添えして首筋に水があたるようにした．ある時，赤い腰巻で着物を乱して走って逃げてきた女性がいたというが，病者の監視は緩やかだったと考えられる．しかし，合力以外は病者と接触する人はほとんどいなかったという．

杉田甫仙・玄白親子の医師と縁を持ち歴史のある小澤寺に目を向ける人も少ない上に，滝治療のことを記憶している人も少なく，治療した人の概数，費用面，滝治療の効果など不明なことが多い．今後も史料の発掘と口述記録を継続して可能な限り明らかにし，小澤寺で行われていた滝治療を精神医療史の中に位置づけたいと考える．